

# 時空人 NEWS

時空人NEWS は [www.jicoojin.com](http://www.jicoojin.com) よりダウンロードできます。

982-8577  
 仙台市太白区八木山香澄町35-1  
 ce.manage@tohtech.ac.jp  
 TEL (022) 305-3513 FAX (022) 305-3501

## 特集 1

### 都市マネジメント学科始動

Page 2

## 特集 2

### 東日本大震災

緊急支援物資の流れの実態 Page 3

宅地災害に思う Page 5

## 時空人紹介

今野 弘 教授 Page 6

菅原 光平 (4年生) Page 7

## 情報ひろば

(入試情報・今後の予定)

Page 8



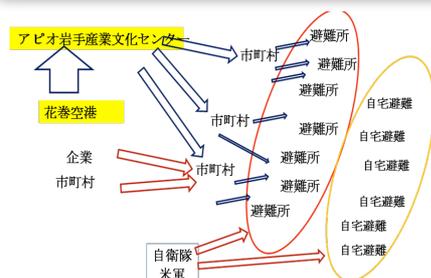
新学科WEBサイト [www.jicoojin.com](http://www.jicoojin.com)



1年生セミナーの一コマ - Page 2



Kスタ観戦 - Page 2



緊急支援物資の流れ - Page 3



宅地災害 - Page 5

悠久の **時** をとらえ **資源と空間** を活かし

思いやりのある都市や地域を創造して

**人** と結ぶ それが **時空人** 。

従来の学科とは違う、都市マネジメント学科のあり方です。

## 大震災に出会ったこと

まず初めに、このたびの東日本大震災で被災した皆様には心からお見舞い申し上げます。

このたびの震災では沿岸部における津波の被害がとりわけ甚大であり、不明にも、津波減災の方法を研究していた筆者の想像力をはるかに超えるものでした。さらに、内陸部でも地震の被害は大きく、ガス、水道、電気が止まりました。途端に日々の生活が非常時の生活となりました。復旧のスピードには地域ごとに差がありましたが、これらの回復まで長期間を要し、ライフラインの途絶が生活にいかにも大きな影響を与えるかを再認識させられました。

本学でも建物や設備に被害が発生しましたが、ライフライン途絶の中、近隣住民の緊急避難を受け入れ、その後状況に応じて給水活動や消火用水を生活水として提供し続けるなど、できる限りの努力をした次第です。しかし、まことに残念ながら4名の学生が被災地で命を落としてしまいました。

今回の津波は1000年に1度の規模ともいわれています。30歳の時に子供を産むとすると1000年間に約33世代がはいるので、そのうちの1世代が被災に対処することになります。しかし、自分の世代がたまたま「大震災に遭遇しなかった」では済まないと思います。被災する世代のことも考えて今を生きる必要があるのではないのでしょうか。

誰でも一度は、なぜ生きるのか、と自問すると思いますが、この世に生を受けたからには少なくとも「後世に対する義務」がある、とは言えるのでしょうか。ましてや大震災に出会ってしまった我々の世代として何をするべきか、そんなことを考えさせられる大震災でした。

## 都市マネジメントとは

さて、この4月からこれまでの「建設システム工学科」の学問分野を広げ、より大きな視野を持つ「都市マネジメント学科」が始動いたしました。これまで培ってきた優れた技術を活かす視点から、**過去・現在・未来の時間軸をもって「まち」の文化と機能と安全と未来を考えていく学科**です。ここで、「都市」と「まち」は、村や町やいわゆる都市などの人が集まり住むところを意味しています。

世の中は、細分化して要素を究明していく時代から、いろいろな要素をどう組み合わせるかの統合の時代に入っています。また、社会が拡大した結果、地球すなわち自然が無限ではなく有限であるという問題に直面しています。自然とは資源であり、資源は有限で、再生産されねばならず、そのための仕組みをどうするか、という問題です。社会あるいは「まち」の仕組みも当然ながら変えていかねばなりません。価値観を物の豊かさから心の豊かさへと転換する必要があります。

これまでに築いた高度な社会基盤技術(水道や下水道、道路や鉄道や港、山・川・海岸の保全や公園など)は物づくりの技術といえ、これを活用しつつ防災にも対処した**心豊かな未来ある「まちづくり」**を考えるのが本学科の「都市マネジメント」です。

ここで例えば、アプローチの道路などが整った大型スーパー店を考えてみましょう。なんでも買えて荷物は車で・・・はとても便利ですが、そのために町の中心部の店がつぶれてシャッター街となつてはなんとも心寂しく、まさに、心豊かにの逆となります。

四季折々の催し物、お祭り、子供と遊べる憩いの場、若者が切磋琢磨する競技場など、人が集まる場所が「まち」には欠かせません。安全で便利だが文化性があり個性豊かな「まち」がいい。その

ような「まち」にするためのインフラ整備こそが大事で、それを維持する経済的仕組み、観光資源ブラッシュアップなどをマネジメントする人材が必要となります。そして、本学科はその様な人材を育てる学科なのです。



## Kスタ観戦

そこで、新学科では新しい試みも始めています。「都市マネジメント学科」に入学してきた1年生には、さっそく、東北楽天の本拠地の**Kスタで野球のイベントを見学**してもらいました。プロ野球は長い間、時間という波にもまれながらも集客力のあるイベントとして生き続けている力があるので、その力の源、効果、内容を分析し、まちづくりの要素に導入できないかを検討してもらおうとする企画です。Kスタへのアプローチを調査し(写真1)、球場周辺の賑わいと雰囲気を観察し(写真2)、そして観戦で観客席での盛り上がり体験(写真3)しました。いつしかゲームに熱中してしまったようですが、後日KJ法を用いて「イベント」の力についての作業(写真4)をしました。



写真1 球場へのアプローチ調査

## 2つのコース

「まちづくり」には全体を掌握して運営するマネジメント力が不可欠



写真2 球場公園の観察



写真3 試合観戦



写真4 KJ法での分析

です。しかし内容が広範にわたるため、一人ですべてを修得するのは大変です。だから学科に2つのコース、すなわち社会基盤技術の基礎を理解して地域の経済や文化への視野をもち、かつ、企画構成実行力を有した人材を育てる**プランナーコース**と、プロジェクトのマネジメントを理解して高度な社会基盤技術を修得した人材を育てる**エンジニアコース**を用意しました。2つのコースの人材が社会に出て協力し総合力を発揮することにより、未来へつなげる「まち」が創られていくと考えたのです。以下に各コースを紹介します。

**プランナーコース**：社会基盤技術の基礎、地理情報・IT情報処理、経営、財政、交通、計画、地域観光資源を学びます。社会基盤技術を知り、構想・企画・運営ができるマネージャーになります。例示すれば、

- 1) 公共政策計画・管理の公務員、コンサルタント等でのシティアドミニストレイター。都市基盤の整備運用、情報インフラ、リスクマネジメント、都市計画、都市財政などの知識で、質の高い生活と安全で快適な都市システムの構築に携わる
- 2) 都市交通計画コンサルタントなどでの交通プランナー。効率

性・信頼性・経済性・環境負荷の軽減、人間の行動原理などを活かした交通ネットワークシステムを構築

- 3) 会社経営者などのプロジェクトマネージャー。技術の基礎、リスク管理、経済・財政・行政の知識などのプロジェクトの企画・設計・運用に力を発揮

**エンジニアコース**：社会基盤技術の高度な技術、地理情報・IT情報処理、技術のマネジメント、プロジェクトのマネジメントを学びJABEE認定の技術者となります。例示すれば、

- 1) 市民生活を支える施設や構造物（道路・鉄道・港湾・空港・橋・ダム・水道・下水など）の建設・維持・管理のできる建設技術者
- 2) 地震・津波・台風・地滑りなどの自然の脅威から”まち”を守る防災技術者
- 3) 自然を守り水源を確保し、市民の憩う河辺や海辺などを創生する環境管理技術者

### おわりに

これからは新しい価値観を構築して新しい「まち」を創っていかねばなりません。是非、このたび始動した「都市マネジメント学科」にご注目ください。志のある方の入学を心からお待ちしています。

せません。今までは経験を重ねた誰かがそれをしていたのですが、まちづくりのマネジメントをしっかり学ぶ学問の場がなかったの

## 特集2 東日本大震災

### 緊急支援物資の流れの実態

稲村 肇 教授

#### 概要

平成23年3月11日、東北、北関東太平洋側で、わが国史上最大の地震と巨大津波が発生した。震災直後から政府・自衛隊・地方自治体・企業などが被災住民の命を守るため、懸命の緊急支援物資の輸送を行った。そのニュースは連日報道されたが、その緊急支援物資がどのように流れ、どのように被災者に渡ったかという全体像を誰も知らないということ、皆さんは知っているだろうか。緊急支援物資などの毎日流れ、とどまらない物に関する数値的な記録は様々な場所にバラバラに存在するものの、系統的には残されていないのである。私たちはこうした貴重な記録が散逸する前に、収集記録が必要と考え、東北工業大学・東北大学など東北の大学を中心

として「ロジスティクス調査団」を組織し、全国7大学の支援を受けて、そうしたデータの記録の収集整理を開始した。

注) ロジスティクスとは緊急支援物資の流れであるが、流れだけではなく物資の発生地、中継地、倉庫などの保管、配送までの全体を表す言葉である。



#### 緊急支援物資の流れに関する情報源

緊急支援物資のロジスティクスに関する情報は以下のような様々な組織や団体に分散して存在する。

- ① 被災した各県・各市町村に存在する情報

ロジスティクス調査では物流拠点における物資の搬入、搬出の送り状などの元データを把握する必要がある。（貨物の発生地→到着地、貨物量、到着・配送日時、輸送手段（トラック：車種）こうしたデータは主として被災各県、各市町村の物資拠点の搬入、搬出、要請に関する記録によりわかる。

- ② 被災地以外の全国の都道府県からの支援物資に関する情報  
この情報は各県のホームページを一つずつ調べることによりわかる。
- ③ 政府調達の支援物資の搬出情報  
内閣府に設置された被災者生活支援チームは、被災地への物資輸送・燃料供給、被災者・避難者の受入対策などの生活支援に取り組んでいる。情報はこの組織で集計しているため組織に依頼して情報収集に努めている。
- ④ 自衛隊による直接支援  
自衛隊は自衛隊自身の調達による緊急支援物資の供給以外に、被災地の様々な地域で、緊急支援物資の輸送・配送にあたった。ここでは防衛省のホームページより直接支援物資の流れを集計する。
- ⑤ アメリカ軍による直接支援  
在日米軍と第七艦隊（西太平洋を担当するアメリカ海軍。旗艦/司令部は神奈川県横浜の横須賀海軍施設を母港とするブルー・リッジ）は震災直後から被災地支援を行った。この活動は友達作戦と呼ばれた。詳細データが米軍のホームページに存在するため、その収集と翻訳・集計を行っている。
- ⑥ 諸外国等からの支援  
震災直後から諸外国は緊急支援に立ち上がり、23の国や地域から支援隊が駆けつけ、これまでに161カ国・地域及び43国際機関から義捐金などの支援の申し出があった。これらは外務省のホームページに公開されたため、そのデータを集計している。

### 宮城県内と岩手県内の被災者への物資の流れ

上記①から⑥のうち、自衛隊と米軍による直接支援以外の物資の大部分（99%以上）は最終的には被災地の市町村を経由して被災者に配分されている。従って、それら市町村のデータを集計すれば、緊急支援物資の最後の配分部分の全貌が分かるはずである。しかし、大災害を受けた市町村にデータを整理・集計する人的・時間的余裕は全くなく、特に震災初期のデータはかなり失われているため、調査団の集計は難航している。

緊急支援物資の物流は3月11日から17日までの第一段階、3月18日から31日までの第二段階、それ以降の第三段階で大きく異なる。このため、調査も各段階において異なった扱いをする必要がある。

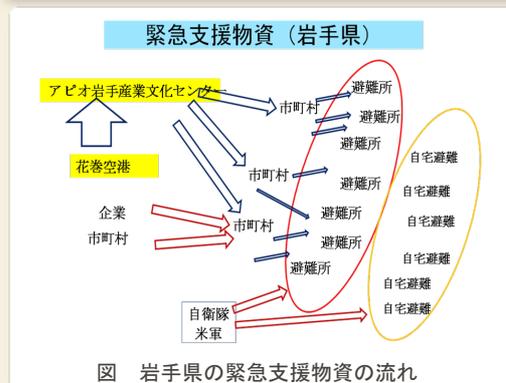
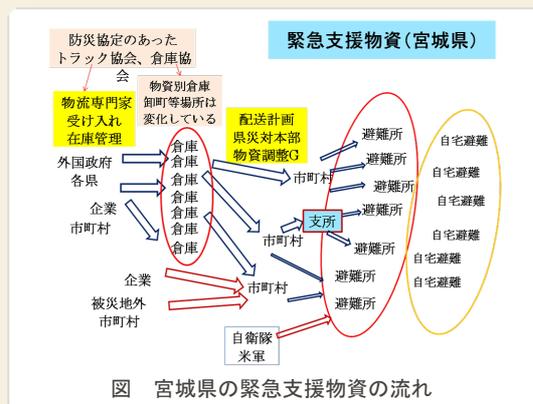
#### 1) 第一段階（3月11日から17日）

第一段階においては、県からの供給、企業や県外市町村からの直接輸送、自衛隊による供給、米軍による供給などが錯綜し、統一的なデータ

は用意されていないため、個別に調査する必要がある。とはいえ、多くの供給者、多くのと受け入れ側があり、把握は非常に難しい。したがって代表市町村でサンプル調査を行い、避難所の収容人数などにより拡大推計を行う。幸い、自衛隊や米軍に関してはWEBに詳細な活動報告が記載されているため、それを現地調査で修正する形とする。市町村においては受け入れに際しての伝票やメモは多く残されているため、これをデータ化して原単位を作成し、拡大集計を行う。この時期には何のメモも残されていない場合もあるが、それは少量として、無視する。

#### 2) 第二段階（3月18日から31日）

第二段階においては支援物資の受け入れ態勢を含め被災県（岩手県、宮城県）の対策本部がロジスティクスの中心となった。この段階での緊急物資は、企業や個人、他県自治体による被災市町村への直送分が50%程度を占めると推定される（詳細は解析中）。自衛隊や米軍の活動は人命救助や物資輸送に重点が移り、供給自体は減少した。県が取り扱った物資のデータはこの時点から電子媒体で集積されている。市町村への直送分は依然、紙媒体で残っており、これのデータ化が現在の我々チームの最大のロードになっている。岩手県内と宮城県内の緊急支援物資の流れが下図に示されている。両県でかなりロジスティクスが異なることが分かる。



#### 3) 第三段階（4月1日以降）

第三段階においては上記の県を中心とする物資の流れが大半となった。そこで、調査チームは

現在、下記の組織のデータを  
集積・解析中である。宮城県  
災害対策本部、②仙台市、③  
石巻市、④南三陸町、⑤岩手  
県災害対策本部

### おわりに

緊急支援物資の流れの状況は上記の  
ように把握されている。しかし、実  
際に流れた物資の品目や数量の分析  
はまだまだ半ばに達していない。こ  
の集計には後、3カ月程度かかるこ  
とが予想される。集計ができ次第、  
公表する予定である。



## 宅地災害に思う

今西 肇 教授

東日本大震災では津波が海岸部を襲い、数多くの  
人命と有形無形の財産が失われました。それととも  
に、地震動による住宅地も甚大な被害を受けていま  
す。地盤の液状化と宅地変動です。  
この液状化現象は千葉の浦安地域をはじめ、砂で埋  
め立てられた地盤で起こり、不等沈下により、機能  
を消失した建物であふれました。

また、宅地変動では、仙台市の住宅団地の多くが  
強い揺れのため、宅地が盛土箇所や斜面下部の方向  
にずれ、建物の不等沈下や地割れ現象などが発生  
し、住環境として機能を消失しています。住宅地で  
このような変動が多く起こったことに、改めて驚い  
ています。

私は地盤工学を専門とするエンジニアでした。こ  
れは土木、建築、地質が一緒になったいわゆる複合  
分野です。今までは、地盤工学といえば、土の基本  
的性質から力学現象まで理学的な分野を取り扱って  
いました。しかしながら、人間の行動する範囲が拡  
大するにつて、新たな自然現象との戦いが始まり、  
最近では、リスクマネジメント、防災マネジメントな  
どというマネジメント分野の割合が地盤工学の中  
でも急激に増えました。

なぜそのようなマネジメントが必要かと言いま  
すと、地盤で起こる様々な現象が複雑で見えないか  
らです。それが不確実なものとして捉えられ、その不  
確実性をどのように我々の生活に反映するかという  
取り組みになります。

そこで、今回の地震により身近に発生した宅地災  
害について、リスクマネジメントの見方から私なり  
の考えを述べたいと思います。



地震被害を受けた住宅

皆さんが今住まわ  
れている住宅の下に  
ある土を含めて、  
ずっと下までを地盤  
と言います。しか  
し、住宅地の地盤  
の取扱いは、地域を  
造成するときやそれ  
を売買するときなど  
においても、あまり注

意を払ってこなかったというの  
が実態ではないのでしょうか。  
建物に関しては見えるもので  
すから何度も吟味されたはず  
です。しかし、地盤の中までは  
見えないので、納得する以前  
に、検討のリストからも外れて  
いる取扱いをしていました。

これに対して土木の分野では  
インフラストラクチャー（流  
通・交通、水資源、エネルギー  
などの社会施設）の整備のため、  
地盤を掘削することが多かった  
ことおよび問題が発生した場合、  
社会のシステムが壊れてしま  
う危険性があったことで、設計  
時に様々なリスクを想定した  
検討を行っていました。

M9が発生してから、道路や鉄  
道と住宅にその違いが明らか  
になりました。今回の地震では  
土木の土構造物（高速道路）の  
壊れ方は少なく、建築の土構  
造物（宅地）の壊れ方が多か  
ったのです。

さて、皆さんは住宅を購入する  
ときにどのような点に着目し  
て購入しますか。実は私は昨  
年4月末に住宅を購入しまし  
た。数千万円する物件です  
ので、慎重に物件を選びまし  
た。

たとえば、建物については、  
土地の広さ、間取り、どちら  
向きか、道路の広さは、駐車  
場は何台駐車できるか。周  
りの環境は、学校の位置は、  
ショッピングセンターの位置  
は...、などなどです。

どこまでかは、一般の人と同  
じです。残念ながら、一般に  
はその家がどんな地盤の上に  
立っているのかまでは、あま  
り注意しませんね。ましてや  
、地震が起こった場合、地盤  
が崩れる、変動するなんて  
ことはほとんどチェックしま  
せん。地震保険に加入してお  
こうというくらいでしょうか。  
または大手の開発会社で作っ  
た団地だから、何かあった  
ときにはちゃんと対応してく  
れるだろうくらいでしょうか。

しかしよく考えてください。  
あなたが購入したのは住宅  
だけではなくありません。  
土地も一緒に買っているの  
です。しかも場所によっては  
、建物よりも高い買い物かも  
しれません。そしてそれは  
個人の財産です。今回の地震  
で壊れたからと言って、それ  
を誰

交通：仙台市地下鉄南北線 仙台 駅  
 バス 20分 「\*\*\*一丁目」下車 徒歩 10分  
 価格：\*、\*\*\*万円（消費税込） 間取りタイプ 4LDK タイプ  
 建物延床面積：120.22m<sup>2</sup>  
 土地面積：公簿 266.12m<sup>2</sup>  
 築年月(和暦)：平成 2年 4月 建物構造 木造 2 階  
 接道状況：一方道路 駐車場 カースペース 2 台有  
 接道方向：幅員 南/6.0m 公道  
 用途地域等：市街化区域/第1種低層住居専用地域  
 建ぺい率：40% 容積率 60%  
 現況：空家 引渡時期 即時  
 取引態様：媒介(仲介)  
 備考：\*\*会社開発物件

#### 中古住宅販売の広告例

会社に尋ねました。市の防災ホームページで地震時の被害予測なども調べました。不動産会社の担当者は、建物についての知識は豊富ですが、地盤についての知識はほとんど持ち合わせていないというのが実情でした。私が聞いても、盛土だと思ふけれど、前の地震での被害はなかったとか。このあたりはとても硬くて造成するときに苦労ようだとか。返答はそのくらいでしょうか…。ましてや地盤の柱状図(数十メートルの深さまでボーリング調査をして作った土の性質や状態を示す図面)などはありません。

一例として、不動産販売会社の広告例です。実態は、残念ながら、どこにも地盤に関する表記がありません。

もしあなたが、住宅の購入をお考えであれば、地盤のことをたくさんお聞きください。高い買い物をするのですから、建物そのものだけでなく地盤のこともしっかりと答えてくれる不動産会社を選定することです。

さて、被害を受けたらどうするかは身近な問題です。しょうがないから自分で補修しようと決めても、被害が自分の家だけだったら何とか自己負担さえ覚悟すれば問題がないですが、そのあたり一帯が斜面の下の方に向かって滑り始めているような場合は、その家の宅地だけ修復しても、根本的な変動の解決にはなりません。それと、その宅地の品質です。宅地にも品質があるということは初めて聞かれます。もちろんです。今回の地震で明らか

かが補修してくれるものではありません。とここまで書くと「へえー、知らなかった」という人も多いでしょう。

私は、地盤についてもきちっと調べて購入しようと不動産

になったことは、宅地の品質が悪い場所は被害が拡大したということです。たとえば、盛土の土が盛土にふさわしいかどうかです。粘土がたくさん含まれている土はよくない土です。また、水を多く含む土もよくない土です。

そのような土が急な斜面に盛り上げられているとしたら、少しの地震でも崩れるのは当たり前です。

特に景色のいい場所は急な斜面が多いですからそのような土で盛り上げられていたりするととんでもないことが起こります。家ごと滑り落ちるようなことです。でもそのような住宅は景色がいいということで地盤の品質が悪くても周囲よりお値段も高いのが実情です。家電などを買うときにデザインが良くても、すぐに壊れるようなタイプのもので

さてそのような品質が良くない土地については、地震が起こって変動や崩壊が起こったからと言って補償されるでしょうか。今の法律では難しいというのが現状です。開発業者と交渉をすることもできるかもしれませんが、しかし、不動産販売会社も業者の言い分があるでしょう。すなわち、土地を売ってから20年もたっているから耐震基準が制定される前の物件だとか、今回の地震は巨大地震だからそこまで対応はしていないとか。行政は、個人の所有物である土地は個人で修復すべきだ。という当たり前論でしょう。

私の専門は「地盤工学、リスクマネジメント」です。そして、このような大きな自然変動が起こる場合、どのようにして地震リスクから市民を守るか、都市のマネジメントを行う上でとても重要な問題です。住宅問題でそれを考えると、回避(住宅を買わない)、保有(被害を承知で購入する)、削減(買って被害対策をする)、移転(住宅に保険などを掛ける)をいろいろな角度から研究します。

身近な宅地災害の問題でリスクマネジメントの話をしましたが、これからの復旧・復興に対して、都市の再生を目指してこのような対応を学び研究するのが都市マネジメント学科の一面でもあるのです。

## 時空人紹介

### 今野 弘 教授

#### 研究内容

専門分野は「水道」です。日本の水道は、今や世界の誇りです。しかし、明治以前は、安全な水は少なく、病気が蔓延するという状況が頻発しました。それを明治政府が招聘した欧米の教育者や技術者により今の基礎が培われたのです。

水道の目的は、「保健衛生」です。「健康を保ち、生命を衛る」ために水道があります。医者は病気を治療しますが、水道は病気を防ぐわけです。

「水と空気」といわれるように、有って当たり前、無ければ生きられないものです。いつでもどこでも満足できる形で水を

供給できる都市造りが私どもの専門分野です。世界の人々の5人に一人が安全な水にアクセスできないといわれています。明治期の恩を世界に還元できる研究を続けています。



## 今野 弘 教授 略歴

- 1967年 宮城県石巻工業高校土木科卒業
- 1971年 東北工業大学工学部土木工学科卒業
- 1979年 東北大学大学院工学研究科  
博士後期課程満期退学
- 1971年 東北工業大学工学部助手
- 1979年 東北大学工学部助手
- 1980年 東北工業大学講師
- 1984年 東北工業大学助教授
- 1988年9月～1990年3月  
タイ王国内務省に派遣
- 1995年 東北工業大学教授
- 学位1980年3月 工学博士（東北大学）

## 学生時代の人生における意義

高校から「土木」を勉強しました。すぐ就職するつもりで部活も「土木部」で測量ばかりやっていました。もっと勉強したいと入った大学でのアルバイトで、土木業務のほぼすべてを体験しました。下水処理場建設の市役所現場事務所ですりすり1ヶ月寝泊まりしたり、コンクリート擁壁造りで辛いブロック積みも経験しました。今の職業に繋がる体験は大学での卒論でした。テーマに関していろいろと考える、展開する、時間にとられず打ち込むという卒論は実に新鮮でした。恩師に勧められ、運の良さや支援もあって進んだ大学院は、人生で最も勉強に集中できた期間でした。（いまや大学院は研究者のみの養成機関ではありません。大学生に大学院進学を大いに勧めます）

学生時代は、また幼友達でない友人との出会いの場であり、クラスでは同分野、同学年、部活では異分野や異学年で友を得

ます。寮などでの語らいは深夜にも及びます。

年間休日は、土日が52週で約100日、夏休みは約50日、後期試験後新年度までの休みが約50日、その他休日が約30日で、一年の約2/3が実は休日なのです。授業以外の時間は相当に長く、人生でこれだけの時間を自由にできるのは、学生時代しかないでしょう。この自由時間の使い方がその後の人生の糧となることは間違いありません。しかもそのプログラムはこれまた自分で設計できるのです。

将来を考えるのも良い、いろいろな蓄えをするのも良い、悩みを友達と語らうのも良い、何も得られないと感じてもそれが無駄でない体験もあるでしょう。

いずれにしろ青年の一時期である学生時代は、**人生の礎をしっかりと築かせてくれるはず**です。

## 菅原 光平（建設システム工学科4年生）

私は、高校の頃から土木の勉強をしてきました。土木を学んでいるうちに、**自ら設計、計画して構造物を造っていく建設業に興味を持ちました**。高校では土木施工、構造力学などの座学が中心で、実験・実習があまりできなかったのが、大学に進学してより深い知識、高度な技術を身につけようと思い東北工業大学に入学しました。

大学では、高校で学んだ範囲よりも、どの教科も深く学べ、河川工学や水理学など水に関係する分野も学ぶことができました。実習・実験は、1年生の時にパソコンを使って設計するCAD、2年生では実際に外に出て測量を、前期・後期を通してみっちり学びました。3年生の時には、高校ではできなかったコンクリートの実験を行ない、4年生の今は、水質についての実験を行なっています。

私は、大学で勉強しているうちに、水関係の分野に興味を持ち、河川・雨水の水質について研究している研究室に入りました。私は、東北大学植物園の小河川における季節ごとの水質の変化を研究することにして、実際に現地に行って上流、下流の水を採取してきて、実験室でその水質を調べています。継続的に調査することで、この小河川の季節ごとの上流から下流に流れる間の水質変化について把握したいと思っています。

最後に、私は大学で何をすることも積極的に自分から行動を起こす『TAKE ACTION』を心がけていました。大学では、入学時から各研究室に分かれてセミナーを行い、学習、生活、進路などの指導を1年生のうちからしてもらえます。私は、積極的に先生に話を聞きに行き、進路について早いうちから相談していました。先生方は、親身に



なって私たちをサポートしてくれ、そのおかげで就職を決めることができました。私の所属している建設システム工学科は、日本技術者認定機構（JABEE）の認定を受けており、卒業時に申請すれば技術士補、測量士補の資格を取得でき、授業体制、学生へのサポートなどの環境が整っています。自分がやる気を出して行動すれば、**可能性は無限大**だと思います。みなさんも『TAKE ACTION』自ら行動を起こしてみてください。

## 情報ひろば

### 平成24年度入試要項（都市マネジメント学科：募集 80 名）

	出願期間（必着）	試験期間	選考方法
AOVA入試 （AO入試）	平成23年10月3日 ～10月14日	平成23年10月25日	書類審査、小論文、面接
指定校推薦入試	平成23年11月1日 ～11月9日	平成23年11月15日	書類審査、面接
専門高校・ 総合学科入試	平成23年11月22日 ～12月1日	平成23年12月9日	専門科目（1科目）、面接
大学入試センター試験 利用入試（1期）	平成24年1月4日 ～1月27日	（個別試験は課さない）	3教科3科目を選択 （数学・理科は必須では ありません）
大学入試センター試験 利用入試（2期）	平成24年2月14日 ～3月1日		
一般入試（A日程）	平成24年1月4日 ～1月20日	平成24年2月3日、4日、5日 （複数回受験可能）	国語・英語・数学・理科から 3教科3科目を選択
一般入試（B日程）	平成24年2月14日 ～3月1日	平成24年3月6日	国語・英語・数学・理科から 2教科2科目を選択

※詳細につきましては、本学ホームページ（[www.tohtech.ac.jp](http://www.tohtech.ac.jp)）をご覧ください。

## 今後の予定

10月15日（土）・16日（日）に第3回オープンキャンパスを実施いたします。教職員一同、皆さまのお越しをお待ち申し上げております。オープンキャンパスの詳細は [www.jicoojin.com](http://www.jicoojin.com) にお知らせいたします。また、時空人NEWS 次号は11月に発行予定です。

## 編集後記

このたびの未曾有の大震災によって、被害にあわれた方々に改めて衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年4月より、新入生（第1期生）59名とともに都市マネジメント学科がスタートしました。これまでの「学科ニュース」も「時空人NEWS」として一新し、紙面を大幅に増やしました。「ふるさと東北」の再生に向けた本学科の理念・方向性をどのように情報発信していくか、非常に悩みましたが、できるだけ多くの方々に、多

様な視点で原稿を書いて頂くことにしました。今後も継続的に情報発信していきたいと考えております。ご要望・ご感想などございましたら、下記連絡先までお願いいたします。

最後になりますが、関係者の皆様に一日も早く安寧の日々が戻ることをお祈り申し上げます。

（記：菊池 輝）

「時空人NEWS」 Vol.1

発行者／東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科

982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 Tel:022-305-3513 E-mail:[ce.manage@tohtech.ac.jp](mailto:ce.manage@tohtech.ac.jp)